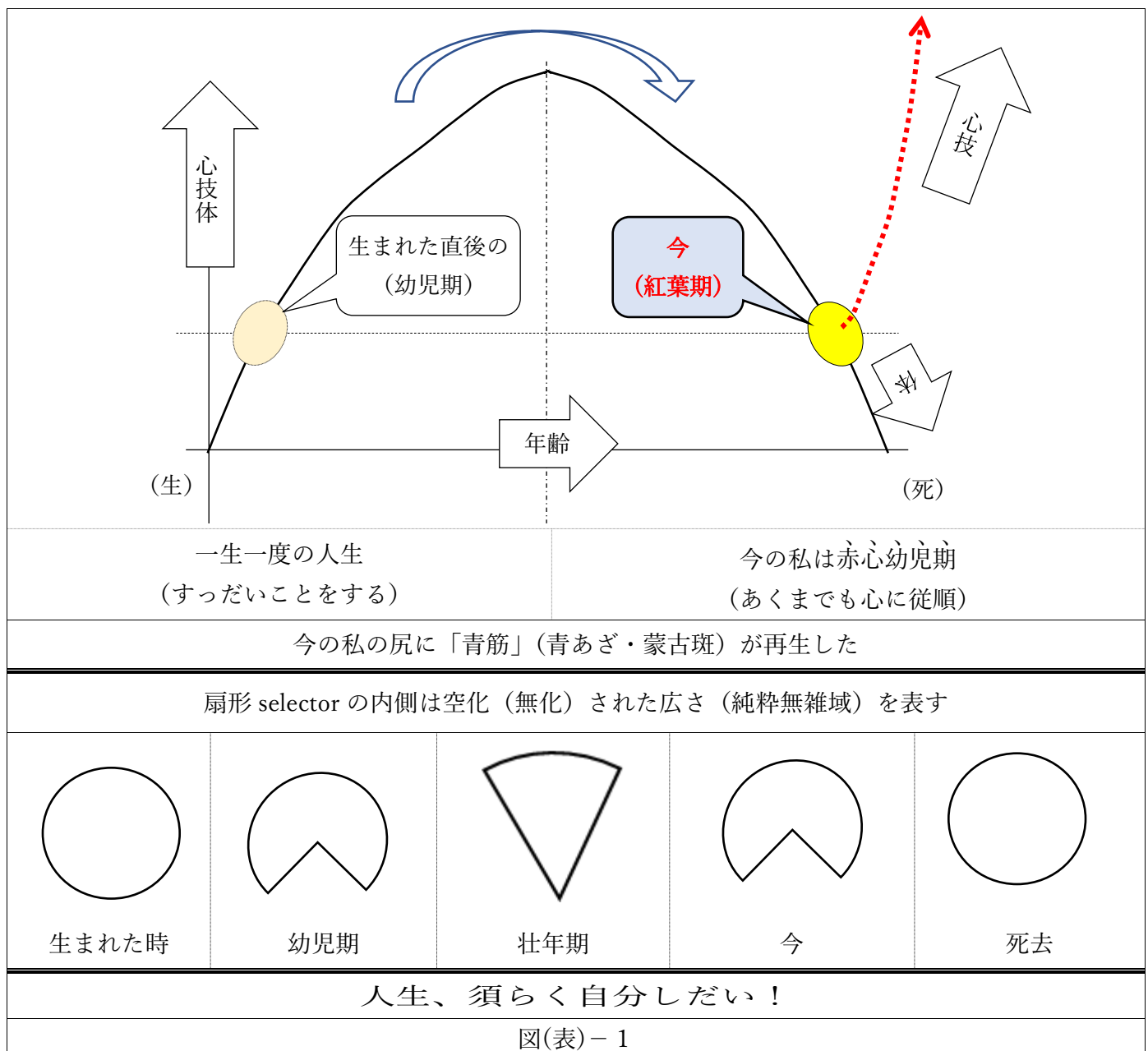


【Zigzag-memo No20】 私の老計・死計（2）

中国古典「淮南子」にある名句のこと。「行年五十にして四十九年の非を知り、六十にして六十化す」。五十歳になったら、今までの自分の四十九年間の生活が誤りだと悟り、失敗と後悔を反省すべきだ、何歳になっても自己を改ためれば向上して行くことが出来るということ。「七十にして七十化すでしょう」七十になればなっただけ変化するという意味合い、心の動脈硬化ならずに進歩向上に向けて身の丈の修養を行えという激励である。図(表)－1は「人生放物曲線」と称し、還暦60歳の定年退職後の歴史街道スルーハイク遊学紀行において浮かんだイメージ図である。今、75歳時の心模様は涙もろいところはダダコネで泣き騒ぐ3～5歳児である、確かに加齢に従い心（精神）技（知識）体（体力）の三要素中、体力は低下して行くのは自覚出来るが、心の持ち方は萎えることなく、むしろ、前向きな命のエネルギーが加増して行く実感を抱いている、抱いて来た。生きながらして死の状態を「^{こし}枯死」と揶揄するが～お香を焚いて芳香を放つでもなく、臭い屁を放って悪臭も立てることもない処から、可も無く不可も無い人のことをいう、つまり、面白くない人をいう、**面白いとは話題やその内容に理想や夢に誘う要素が入っていることをいう。**



心身は分離不可と言い「心身一如」が説かれるからは、まずは体を鍛え健康であつての物種というのは普通であると思っていた。しかし、私が敬慕・私淑する安岡正篤先生は著書「人生の大則（プレジデント社）」において、「・・・つまり、疾病という^(※1)病気の50%は感情から起こったもので、ただの医者や薬では治らないということは、もはや現代人の常識といってもよからう。しかし、専門家はもっと恐ろしいことを突き止めている。それは^(※2)幼児期における親の愚かさや不和の影響が、その子の後年における発病の原因である場合が実に多いことである。・・・^(※3)糖尿病は精神的影響を強く受ける。その多くの患者は^(※4)幼児期に家庭にあって甘やかされ、我が儘で複雑な感情を持って育った、特に母親にまわりついた子であることが判明している。・・・幼児ほど環境に敏感である。^(※5)親の精神状態・生活状態は直ぐに子供に反映する。」（現代医学でも問題視されていること。）

※1・3については直ぐに「**病いは気から**」の諺が浮かんた。また、松波治郎著「葉隠武士道」に「・・・自分に勝つこととは気力で体に勝つこと、精神で肉体を支配することである。」という一説がある、みな通底するではないか。「**病は体から**」などとは言わないのだ。自分に当てて改めて振り返り、それらの言葉から学ぶと、精神・気・心が先頭であつて、引っ張って行く中でこそ、身心相関が十分機能し心身一如に統合なら占めるものだと思う。それではその先頭に立つべき精神とは何かである、年齢に関係なくこの歳になつてもうづく理想精神であろう。また、**心技体というのは、心（精神）が先頭である、精神が技（知識）および体を引っ張って行くというのである。**

※2・4について、もちろん今の私の実年齢は後期高齢者であるが、精神年齢は図(表)－1のとおりに3～5歳の幼児期相当であることからしては、人間関係において不和を齎す不愉快な愚かな人間（マンキタゲ佞奸根性）には近付かず、自分自身を甘やかさずと思っているが、安岡先生からスバリ指摘された訳である。先生は“「今」に則して「永遠」に参ずる” 生き方を説いているが、まさに永遠に参ずるとは、息を引き取る寸前における「**可能性としての人間智至高レベル**」を目指して理想精神に燃え、日々の人間的陶冶修養を説いているのだろう。

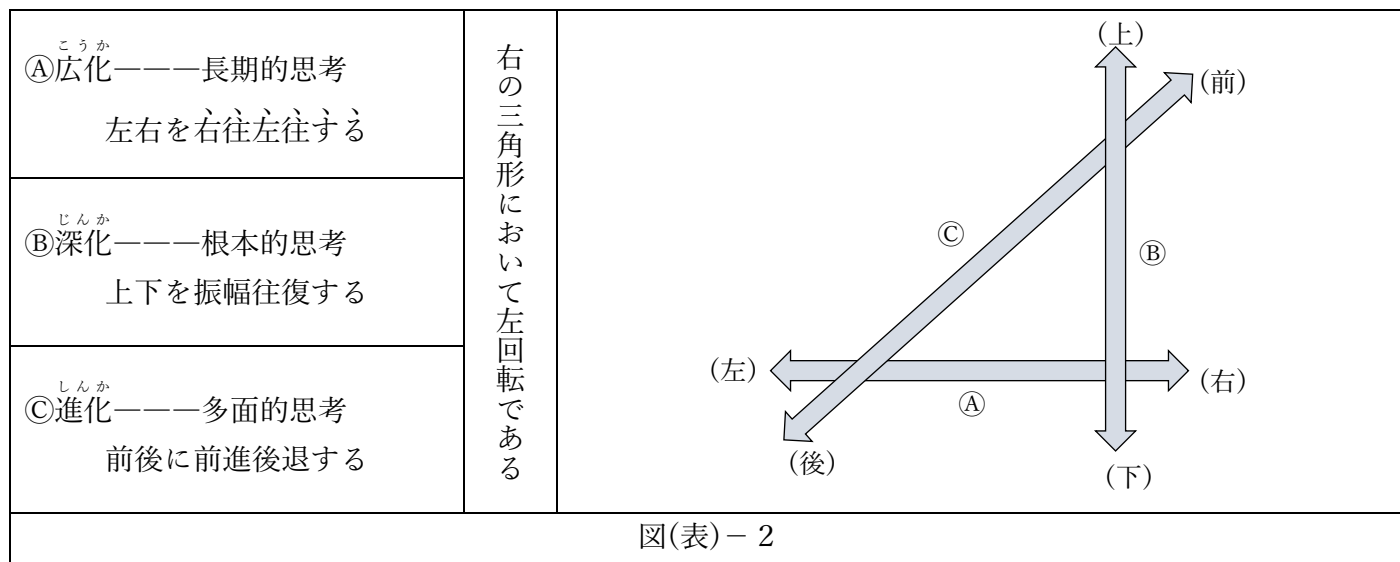
※5について、幼児期の私に係る環境・親とは人間関係に係る大人達であるが、その大人達の精神状態が私に直接反映するというからには、悪友を退け、善友を求める姿勢である。

さて、振り返ってみると、2009(H21)年定年退職の翌年から歴史街道スルーハイク、四国遍路の歩き旅遊学紀行を続けているが、2010年最初の年の心を整理した言葉は次のとおりであった。

・・・ 還暦を過ぎたこの歳に相応しい「探究心（物事の真相・本質を探りたいとする向上心）」が自噴（直感力・洞察力・思索力の内発）し、すると別の処で右往左往していた「好奇心（未体験・未知の事物に対する強い関心欲）」が活動的になり、そしてその思いを実行・実現したいと言う「冒険心」、すなわち「知行合一」の行動欲、いわば探究心と好奇心の統合に駆られる心の蠢きに従順になりたいと強く念ずるようになった。“もう歳だから”などと弱音を吐く萎縮的な防衛本能は脇に追いやられるような境地になった。この三つの心を「我が儘三心、強がり三心、ぶつぶつ三心」と称している。・・・

人間はいつまでも成長したい、向上したい、勉強したいという欲求がある、私とても細やかながら自覚できる。この精神を私は「ピタゴラス^{こうじんしん}『広深進』化成欲求」と称している。その意味するところは図(表)－2のようにイメージ図化した。「好人心」と重ねている、好きな人心という意味を内包する。

前出安岡先生が提唱し今やビジネス界においては定番の「長期的思考、根本的思考、多面的思考」に対応させたものである。



茶談においては「強弱・大小・優劣」を競うが如く、あるいは判定するが如くの話は面白くない、「真善美」の話ならば面白い、意義が高まる。なぜならば前者は付属物、後者は本性心に係るからだ。そこで茶話茶談・酒飲み会において、理想を語りながら生き方を話題に出すが、このような私に対して “今更、理想を語って何が得するの、今更この歳になってそげだ難しいこと言うなよ” と不快感的な表情の人が必ず一定数はいる、ならば、その人に耳を傾けて観ると無為姑息の可もなく不可もない、つまらない話題なのだ。また、この場合は政治の話はだめだとか、宗教の話は絶対にだめだとか、裁判官風に仕切る者もいるが、何様だと思っているのか、それでは有意義な話をするのかな？と観察すると、ただ面白可笑しくのつまらない話を展開し時間を無駄遣いしているに過ぎない、昔から先人の知恵で「時は金なり」というではないか。こう言う大沼は近付き難いと思われるからほどほどにせよというアドバイスが飛んで来そうだが、私の語る理想などは高学歴者の皆さんと比べたら取るに足らない砂粒模様、軽佻浮薄から難しいようなことを言っているが、能力が無い者ほど難解な言語を使って飾ると言われるから、その類だと言われればそれでいいのだ。

さて、ところで最高に嬉しいこと。2024(R6) 年 8 月 28(水)、私の知人宅において後期高齢者 3 人（女 1 名、男 2 名）で 3 時間懇談した。女性の方から「グランドゴルフを長年やっていたが、どこか物足りなさを感じていた、そして突然の如く詩・短歌・俳句に目覚めた」という趣旨の話——実は 2 年も経たない内に山形新聞に次々と取り上げられた、あっという間に文芸的才能を開花させたのである——を伺った。ここで私の連想、文武両道——文道と武道の完全両立・完璧到達というのではなく、身の丈を以って心（精神）技（知性）体（体力）の調和の取れた人間形成を目指す道と言われるが、例えば今様の武の一つと言えば運動やスポーツだろうが、それを極めたとしても、絶対に 100%の満足感はいずれ得られないだろう、逆に、例えば今様の文の一つと言えば知識習得だろうが、それを極めたとしても、絶対に 100%の満足感はいずれ得られないだろう。陽明学の始祖王陽明の「知行合一」——知は行の始なり、行は知の成るなり（知ることは行為の始めであり、行為は知ることの完成である）、行動を伴わない知識は未完成である、それでは本物の知識とはならないという考え方にみんな通底する。その方の独り言のような何気ない言葉から大いに考えさせられた。始終、人道を弁えた生き方についての話題であった、いわゆる、娯楽とか他人の影口とかの話題是一片たりとも出なかった。三人三様の持ち味を交換出来た最高の有意義な時間を過ごした。

懇談の最後の方で、誰となく “このような話は、普通は出ないだろう” と為りました。

人間は天地の創造物として天地の間に立つ以上は、進歩向上が止まない生き物なのだ、無限の可能性エネルギーが自噴自発する万物の霊長たる生き物なのだ、「creative-potential」（創造的潜在能力）旺盛なのだ、そのことに従順に素直に生きればいいのだと言い聞かせている、こうでなければならないなどと頑なに息巻くと、あるいは反対に、放縦の極みを安楽していると、**自造自動施錠の檻・ネットリングに入る、あるいは、自作バリア・ベールで包装する**も等しいと自己警醒し自己暗示している。偏る・片寄る、執着して留まるは、結局は一生一度の人生を虚しいものするに等しい。私自身内の最大の敵は「**(※) 桎梏** **ア縫自 野郎**”大好きな鬼、“自由”を縛る悪魔」であり、つまり、自らの硬直と委縮は絶対に許せないと自省・自律している。終盤人生の真諦を求めんと藻掻く私の口癖は「freedom（自由・無碍） flexibility（柔軟・弾力） fantasy（夢・希望）」だ。私は自分を「新型風見鶏」と称し、参学道（人としての真っ当な生き方を学ぶことに参ずる）に精進して生きたい。しかし、心の軸は時処位・TPO 即応の最適解としたい。**(※)** 自らが自分を手かせ足かせグルグル巻きに縫って凝り固まっている状態をいう。

我が人生に千利休の名句がある、「人の行く裏に道あり花の山 いずれの道も散らぬ間に行け」

日々隙間狙いの懦弱と格闘すべく「身の丈尽心照破」を奮い、楽しく生きたい、逝きたいものである。今更、顔の造作・体付きの改造は出来ないが、心の改良はいくらでも出来るのだと思う。

還暦を過ぎ、後期高齢者に入った私は「人間デブリ」——デブリとはあの東京電力福島原子力発電所爆発事故で生じた放射能まみれのあらゆる瓦礫が固まった残骸様相のもの——を抱えて動けなくなった人間にはなりたくない、全身が「人間デブリ」潰けになった人間にはなりたくない。

ところで、日（太陽）と月（太陰）のこと、日（太陽）は皇祖神に繋がる日向の存在、対して、月（太陰）は日陰の存在だった、しかし、月は文芸で重宝されて来たように「満ちては欠ける、欠けては満ちる」月（太陰）は日陰の存在ではあるが、人生訓にはとても重宝な存在である。

「満ちては欠ける」⇒

成功し絶好調は永遠ではなく、やがては衰退して行くものである。 増上慢・傲慢は、まもなく（やがては）凋落するものだ。
--

「欠けては満ちる」⇒

失敗し意気消沈しても永遠ではなく、やがては成功のチャンスは来る。 謙虚、自戒・自省を心底念ずれば、必ずや他者承認を得られるものだ

陰陽（功罪）両面があるからこそ希望と期待が生まれるものである。

ところで、るる述べる私に対して“大沼は、弱肉強食を是とし、強者の論理であり、冷淡だ”という忠告が天から垂れて来ている。が、ヨレヨレになった最下層の私の愚痴とほざき取るに足らないものなのだ。好きな言葉に仏陀の言葉（スッタニパータ）に「犀(さい)の角(つの)のようにただ独り歩め」がある。また、「成長、発展、進展、伸長、強化充実、積極、上向き志向、広がり、共時、共創・・・」等前向きな意味を有する語彙である。

(end)